

南三陸町における協働の健康増進計画策定への支援

気仙沼保健福祉事務所 成人・高齢班

○技師 渡部和馬, 技術次長 (総括) 佐藤純子, 次長 (班長) 小野寺敏広, 技師 飯田三紀子

Key words: 協働, 地域住民の力, エンパワメント

I はじめに

南三陸町は東日本大震災後, 様々な支援を受ける中で, 復興を進める上でも住民協働の地域保健活動が重要と気付き, 地区活動の契機として第二次健康増進計画策定を住民と協働で取り組むこととした。これまでは外部委託で計画を作成していたが, 初めて自らが計画策定を決意した町スタッフを支援する保健所活動と県保健師としての学びを報告する。

II 活動内容

【主な支援内容】

- ・スタッフ (町・東北大学・保健所) の合意形成のための学習会, 話し合いへの参加, 資料提供。
- ・スタッフ (町・東北大学・保健所) で計画策定の目的, 内容, 方法を何度も重ねて検討。
- ・計画策定のための関係者ヒアリング調査への協力。
- ・各種統計資料等の情報分析・情報提供。
- ・計画策定部会スタッフとして参加。
- ・町スタッフの日常的な相談への対応。

【住民との協働の場で心掛けたこと】

- ・健康増進計画策定は, 地域住民や地域をエンパワメントするツールであること。
- ・健康増進計画策定後の, 地区住民の役割と町職員の役割を意識。
- ・住民の自由な意見が出されるような話し合いの進め方や情報の提示の仕方を意識。

III 考察

協働の健康増進計画策定の支援を通して, 地域住民の力や町の職員の力を感じることが出来た。健康づくりについて意見交換をした際に, 住民から「何のための健康づくりかという周知が不足している。」といった発言や, 健康増進計画案を提示した際には「参加した私たちから広めて行ければいいんですよ。」との発言があった。協働による計画策定のプロセスの中で地域住民がエンパワメントされ, 健康増進計画を普及する役割を自主的に担うようになった。町の職員はこれまでの個別支援を通じた地域住民とのつながりや地区活動を通して, 地域の現状をよく把握しており, 今回の計画策定事業でも地域住民同士のつながりを活かした支援を実践していた。

町への支援を振り返り, 県保健師に求められていることとして, 健康に関する情報の収集分析及び提供する役割, 円滑な進行管理や評価する役割, 協働による健康づくりを推進する役割が考えられた。健康に関する情報の収集分析及び提供については, 他の地域や圏域と比べてどのような特徴があるかという視点や先駆的な活動をしている事例の提供が必要であった。円滑な進行管理や評価については, 計画策定におけるスケジュール管理や必要な手続きの段取りが必要であった。協働による健康づくりを推進する役割としては, 住民が同じ内容について話し合えるような相手にも分かりやすい情報の伝え方や対等な立場で話し合えるようなファシリテート, 話し合われた意見をまとめるための枠組みの提示が必要であった。しかし, その役割を十分に達成出来ていない部分もあり, 今後の町への支援の課題であると考えられた。

IV 結論

南三陸町における協働の健康増進計画策定への支援として, 何回も町に出向き, 町のスタッフや地域住民と共に悩み考えながら計画策定を進めていったことがとても重要なプロセスであった。一緒に活動するなかで, 住民の役割や町の役割がわかり, 県に求められている役割が見えてきた。

協働による健康増進計画策定のプロセスの中で, 地域住民がエンパワメントされていった。この地域住民の力を活かしながら, 南三陸町の健康増進事業の支援をしていきたい。

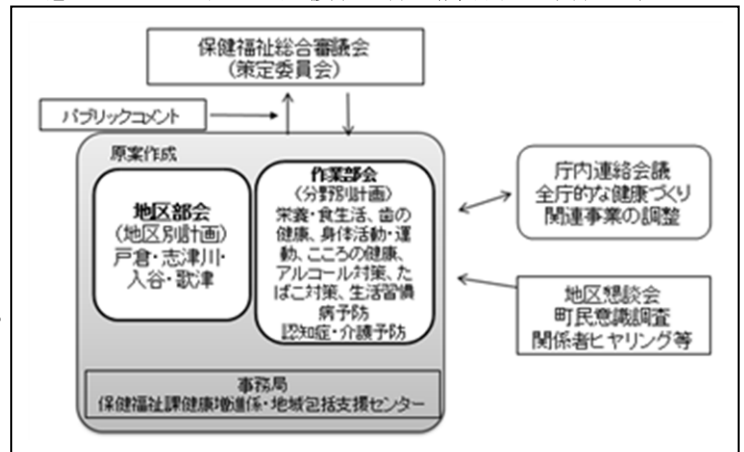


図1 計画策定支援